

東京修猷会会長挨拶

東京修猷会の館友の皆様におかれましては、新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、様々な困難の中にもご健勝にてお過ごしのことと拝察申し上げます。

昨年末に中国で始まった新型コロナウイルスの感染は、世界的なパンデミックとなり、我が国にも感染拡大が広まってまいりましたが、私たちの日々の生活にも大きな影響を与え続けています。

このため、東京修猷会の活動も縮小を余儀なくされ、3月以降の二木会も中止のやむなきに至り、4月の二木会ゴルフコンペや6月の総会も中止せざるを得ませんでした。今後の二木会をはじめとする各種行事も全く再開の目途すら立たない状況です。

今回の新型コロナウイルスのパンデミックは、国内では第一波が収束したものの、まだ、国民の1パーセント以下のごくわずかのしか抗体を持っていません。国民のすべての人がワクチンを接種するか感染するかにより抗体を持つようになるまで、感染の恐れは続きます。有効で安全なワクチンが完成するか、特効薬ができて重症化が防げるようになり、感染それ自体がそれほど心配ないものになるまで、まだまだ数年の月日を要することでしょう。これから近いうちに第二波、第三波が襲来し、再び行動の自粛や活動制限が厳しくなることは、十分予想されます。

こうした情勢下では、同窓会活動の一時的停滞もやむを得ないものと考えますが、行動制限がある中においても、私たち館友が同窓の絆の下、お互いに励まし合い助け合うことや、修猷卒業生であるとの誇りや矜持をもって、困難な状況に立ち向かう力の一助となること、何かあるのではないかと考えています。

館友の中には医療現場の第一線で戦っている方々も大勢いらっしゃいます。また、経済状況の劇的な変化の中で困難に直面し、その苦境を脱しようと懸命に努力されている方や感染を恐れて暗い毎日を過ごされている方も多に違いありません。

東京修猷会としても、館友の絆を強め、館友の元気が出るような、何か少しでも館友のお役に立つことがないかを、皆様と共に考えていければと考えています。これから、皆様とともに一堂に会するという日がいつやってくるかはわかりませんが、お互いに離れていても館友としての絆を確認することはできるものと思っています。しばらくの間、今までの形での二木会の開催はできませんが、何らかの形で館友の元気の出るお話を聞く機会を作ることができればと思っています。

最後になりましたが、感染がまだまだ続く中、館友の皆様方がくれぐれもご自愛の上、ご健勝にお過ごしになられますことを心よりお祈り申し上げます。

皆様とお会いできる日が一日でも早くなることを祈念して

東京修猷会 会長 伊藤哲朗